

行政視察報告書

1. 委員会名	総務建設常任委員会
2. 所属委員	委員長 黒川 悟 副委員長 入江 政行 委 員 藤木 泰、安川 繁典、丸山 康夫、小林 孝昭
3. 視察のテーマ	①おごおり防災士会設立の経緯と活動内容 ②防災リーダーの育成について（自主防災組織を中心に） ③松山防災リーダー育成センターの取り組み しのめ 東雲地区自主防災会の取り組み
4. 本町の課題	本町では、各自治会での自主防災組織の設立を促進している。担当課が校区ごとに研修会を実施し、各自治会の相談を受けているが、48自治会中12の自治会の結成にとどまっている。 防災・減災体制の強化のためには地域ぐるみで防災対策を行うことが必要不可欠であり、その中心となる防災リーダーの育成が課題となっている。
5. 視察関連協議	令和6年4月23日(火) 第1回協議 テーマ決め 5月27日(月) 第2回協議 現状の把握と課題の整理 地域コミュニティ課から 現在の取組を聞き取り 視察先決定 8月1日(木) 第3回協議 おごおり防災士会 質問事項検討 10月3日(木) おごおり防災士会視察 同日 第4回協議 松山市質問事項検討 (11月11日～12日 行政視察) 11月18日(月) 第5回協議 報告書作成 12月12日(木) 第6回協議 報告書作成
6-①. 視察先	おごおり防災士会(福岡県小郡市)
7-①. 視察のテーマ	おごおり防災士会設立の経緯と活動内容
8-①. 視察日時	令和6年10月3日(木) 午前9時30分から 午前11時00分まで

9-①.出席者名	委員長 黒川 悟 副委員長 入江 政行（欠席） 委員 藤木 泰、安川 繁典、丸山 康夫、小林 孝昭 随 行 議長 古賀 ひろ子 地域コミュニティ課 課長 太田 一男、課長補佐 小野 博文 危機管理係長 坂口 政勝、係員 安川 凌 議会事務局 局長 太田 美和
10-①.福岡県小郡市 とおごおり防災士会 の概要	【福岡県小郡市】 面積 45.51 ㎢、人口 59,442 人(令和 6 年 10 月 1 日時点) 令和 6 年度一般会計予算 約 244 億 5,900 万円 筑紫野平野の北、佐賀県との県境に位置しており、東北の台地には標高 130.6 メートルの花立山があり、西北丘陵地帯は、なだらかな丘陵が連なりため池が点在している。また、市の中央部を南北に貫通する宝満川を挟んで、西側に住宅地帯、東側に田園地帯が広がっている。 産業は農業中心ではあるが、筑後小郡インターチェンジ、主要地方道久留米筑紫野線及び鳥栖ジャンクション周辺を中心に物流の拠点として発展している。 【おごおり防災士会】 小郡市内で活動されている防災士の資格保有者で構成するボランティア団体であり、平成 28 年設立以来、自主防災組織や学校など、さまざまな地域住民を対象に、防災に関する研修や訓練を「協働の精神」のもと精力的に実施され、令和 3 年には日本防災士機構から「防災士功労賞」を受賞されている。 会員の中には、居住区の町内会や自主防災組織の防災部員として活動されている方もおり、防災士の知識を生かした提案などを行い、地域の防災意識の向上に貢献されている。

11-①. おごおり防災士会の取組内容	1. 防災士会の組織構成と特長 ・防災士資格を有する区長や地域住民、警察 OB、民間企業関係者をはじめ市役所職員、保育士、学童職員などが参加。 ・市防災担当者は異動後も防災士会に参与できる仕組みを構築。 ・知識とスキルを積み上げ、地域に根差した継続的な活動が可能に。 2. 自主防災組織・防災部会の活動支援 ・自主防災組織(自治会ごと)や防災部会(校区の協働のまちづくり協議会ごと)が実施する防災研修などの活動支援。 ・無線機を使った情報伝達訓練や避難経路確認、災害時初動マニュアル作成の支援。 ※災害対応訓練イメージTEN: 災害シミュレーション訓練支援等 ※まち歩き防災マップ作成・更新の支援 ※年間 40 回程度の支援依頼 3. おごおり防災セミナーの開催 ・防災士会の独自事業で、年 1 回程度、講師を招き小郡市総合保健福祉センターで開催。 4. 行政や防災関係機関との連携 ・小郡市主催の防災リーダー養成講座、フォローアップ研修、小郡市防災部会連絡会、小郡市ボランティア情報センターとの連携。 ※防災リーダー養成講座のカリキュラムの一部を担当し、防災教育を実施。 5. 成果と今後の展望 ・行政機関に匹敵する初動対応力を地域で確立。 ・防災士会が住民と行政をつなぎ、役割分担の明確化を実現。 ・研修や講師派遣を通じ、活動拡大とスキル共有を推進。 ・住民の安心感向上と地域の防災力強化に寄与。
----------------------------	--

12-①. 本町との違い	・自治会ごとに災害時の初動マニュアル作成に取り組んでいる。初動マニュアルを作成した自治会には、資機材補助などを行っている。 ・すべての自治会で防災組織化がなされている。 ・自治会防災組織の代表が校区コミュニティの防災部会で協議し、共有を行っている。
13-①. 委員会所感 (町の取組への意見・委員会の今後の取組など)	防災士の資格を取っても、活躍する場がなく宝のもちぐされとなっている。防災士会を設立し、地域の自主防災組織の設立などに活躍していただけるような体制づくりに尽力していきたい。 また、いつ発生するか分からない災害への備えとして、防災訓練や意識向上の取組が重要であり、誰もが被災する可能性があることを認識してもらい、多くの方々に防災意識を持っていただけるよう啓発活動を行ってきたい。

6-②. 視察先	愛媛県松山市役所
7-②. 視察のテーマ	防災リーダーの育成について（自主防災組織を中心に）
8-②. 視察日時	令和6年11月11日(月)午後1時30分から 午後3時00分まで
9-②. 出席者名	委員長 黒川 悟 副委員長 入江 政行 委 員 藤木 泰、安川 繁典、丸山 康夫、小林 孝昭 随 行 議長 古賀 ひろ子 地域コミュニティ課 課長補佐 小野 博文 議会事務局 主査 松田 好弘
10-②. 愛媛県松山市の概要	面積 429.35 km²、人口 498,806 人(令和6年10月1日時点) 令和6年度一般会計予算 約 2,197 億 2,500 万円 愛媛県のほぼ中央にある松山平野の北東部に位置しており、温暖な瀬戸内海気候で、穏やかで恵まれた気候条件である。 松山市は、江戸時代初期の松山城の城下町形成を契機に、愛媛県の中央部を圏域とする四国最大の中核都市として発展し、都心部を中心に複合商業施設などの再開発が進んでいる。また、日本最古といわれる道後温泉で有名な温泉地であり、正岡子規や夏目漱石などを輩出した「文学の街」としても知られている。
11-②. 愛媛県松山市の取組内容	“産官学民” オール松山で取り組む!! 切れ目のない「全世代型防災教育」 1. 自主防災組織の結成促進 ・平成7年の阪神淡路大震災、平成13年の芸予地震、平成23年の東日本大震災を教訓に『自助』『共助』の重要性を認識。市内全域を目標に自主防災組織の結成を促進。平成24年8月に自主防災組織結成率100%達成。 2. 防災士養成と次世代リーダーの育成 ・平成17年から自主防災組織の推薦を条件に防災士資格取得を全額補助。(全国初) ・自主防災組織や幼稚園、保育園、小・中学校などのほか、多くの一般企業などの防災士の養成が進み、防災士数が1万人を突破。(全国1位)

・愛媛大学と連携して防災士養成講座(愛媛大学公開講座)を制度化。
実践的學生防災リーダー育成プログラムにより、若い世代が地域防災の牽引役として活躍。

3. 地域ぐるみの防災支援事業

・自主防災組織による防災訓練や研修会の開催、資機材整備等の活動を支援し、地域防災力の強化。

4. 松山逃げ遅れゼロプロジェクト

・産官学民が連携し、小学生から高齢者まで切れ目なく防災教育を行う『全世代型防災教育』を確立。

・中学校でのマイ・タイムラインの学習や自主防災組織へのマイ・タイムラインの講師養成研修、各公共施設と地域が連携した施設版タイムラインの作成研修を実施。

※マイ・タイムラインとは…大雨や台風のときに、自分や家族がとる防災活動を時系列に整理したもの。市ではマイ・タイムライン防災アプリを導入。

5. 地域防災の集合体「地域ぐるみの松山方式防災」

・平成 27 年に市、地域防災関係団体及び企業が相互に連携し、総合的な地域防災力の充実・強化を目指すため「松山市地域防災協議会」を設置。地域の防災関係団体の相互のつながりを強化。

・地域防災に協力する企業に「防災協力事業所」プレートを提供し、435社が参加。

・防災士資格取得を通じて消防団員の育成と人員確保にも寄与。



12-②. 本町との違い	・産官学民連携による「全世代型防災教育」を行い、リーダーの教育・育成に力を入れている。 ・一番の弱者である子どもたちを災害から守り、迅速な対応ができるように教職員506人、市内の幼稚園、保育園では151人が防災士資格を取得されている。また、教員や保育士に防災スキル習得のためのサポートを行っている。 ・マイ・タイムラインアプリの導入・普及を行っている。 ・実践的学生防災リーダー育成プログラムにより、若い世代の地域での活躍の場を創出している。大学生防災士で組織するNPO 団体「学生防災リーダークラブ」が設立されており、地域交流や次世代の担い手づくりにも繋がっている。(学生クラブから消防団への加入) ・防災の知識と技術を持った学生の地元企業・自治体等への就職支援を行っている。
13-②. 委員会所感 (町の取組への意見・委員会の今後の取組など)	「地域ぐるみの松山方式防災」を目標とし、防災力を備えるには多くの人の力が必要だと再認識をした。町だけではなく粕屋南部消防署や粕屋警察署、教職員、企業などからの協力を得ながら防災の輪を広げていって欲しい。 防災に取り組む団体に対しては、加点などメリットがあると町全体の防災意識の向上に繋がるのではないかと考える。 防災活動は、災害が起きるまでは着目もされにくい。本町も自主防災組織100%を目標に取り組んでいる。町議会でも防災士資格を取得し、防災に備える必要性を訴え、防災活動を支援していきたい。

6-③. 視察先	愛媛県松山市 愛媛大学 松山防災リーダー育成センター
7-③. 視察のテーマ	松山防災リーダー育成センターの取り組み しののめ 東雲地区自主防災会の取り組み
8-③. 視察日時	令和6年11月12日（火）午後1時00分から 午後3時00分まで
9-③. 出席者名	9-②と同様のため省略
10-③. 松山防災リーダー育成センターの取組内容	全世代型・全組織対応の防災組織プログラムの作成と防災教育の実践 1. 全世代に向けた防災教育の推進 ・小中高生から大学生、地域住民、企業、福祉関係者、外国人まで幅広い層を対象に、防災リーダーを育成。 ・「防災デイキャンプ」や「松山逃げ遅れゼロプロジェクト」、防災啓発劇などの取組を実施。 2. 子ども向けの実践的な防災プログラム ・小中高生向けに「まるごと防災たんけん隊」や防災街歩きなどを実施し、災害リスクへの意識を向上。 ・中学生向け「松山逃げ遅れゼロプロジェクト」では、Web版マイ・タイムライン作成授業や「命のはがき」授業を展開。 ・高校生向けには、防災缶詰プログラム・防災ワークショップを実施。 ※命のはがきとは…子どもたちが発信者になり、授業で学んだ災害の危険性や避難の重要性などをはがきを書いて家族や友人に送り、家庭や地域で防災意識を高める取組。 3. 防災指導者の育成 ・教員を対象に実践的な学校防災研修プログラムを開講。 ・東日本大震災で被災した小学校への視察を実施。 ・地域住民向けに湯煎のみで作れる防災料理教室を開催。

4. 防災士フォローアッププログラムの実施

・市内に在住または勤務し、防災士資格を取得している人を対象に、個人のスキルアップと地域や企業の防災力を高めあうことを目的としたプログラムで「初級者」「中級者」「上級者」に区分して実施。

5. 地区全体での防災意識向上とコミュニケーションの促進

・東雲地区自主防災訓練（避難所運営本部・総合受付の設置、マンホール仮設トイレの設置、応急給水栓の使い方、防災グッズの展示説明、マイ・タイムラインの使用方法、炊き出し訓練）を実施。

・防災活動を通じて住民同士の交流が行われており、地域のコミュニケーションの重要性を再認識されている。

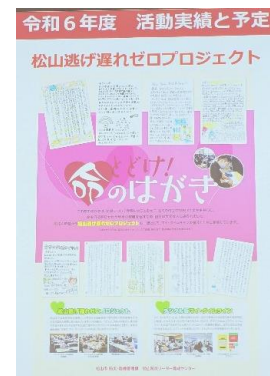
・過去に世界で発生した大規模地震を地図上に示した、「防災を学ぶ世界地図」を東雲地区オリジナルで作製し、市内の高校などに配布している。

時期	活動内容	参加人数
1学期～2学期	Web版マイ・タイムライン作成授業	中学2年生約4,000人
2学期～3学期	命のはがき授業	中学1年生約4,000人
年度末	命のはがきスターの作成と掲示	

Web版マイ・タイムライン作成講座
中学生へ授業をするための授業用CDの配布

Web版マイ・タイムライン作成授業
松山市立の中学1年生（約4,000人）が実施

命のはがき授業
授業で学んだ避難することや避難のしぐさを、命のはがきを通して、東雲地区の住民に伝える



11-③. 本町との違い

・防災はすべての世代共通の課題として、全世代型防災教育を推進している。

・学校の授業のほか、ジュニア防災リーダークラブで小学生の時期から防災に関する知識を学び、関心を持たせることで将来の防災リーダーの育成、地域の防災力向上に繋がっている。

・市内に在住または勤務する防災士資格取得者に対し、各自のスキルや経験などに応じたフォローアップ研修を実施している。

・地域ごとに想定される災害に対しての防災教育を行い、地域に適した防災力の向上を図っている。

・「松山逃げ遅れゼロプロジェクト」の取組で、市立全中学校の1年生がマイ・タイムラインの作成や命のはがきで保護者や大事な家族にも災害に備えることの重要性を伝える学習を行っている。

12-③. 委員会所感
(町の取組への意見・
委員会の今後の取組
など)

防災に携わる人を増やしていき、地域住民が連携していく事が大変重要だと感じた。また、年齢層においても若い年代の実行役を増やし続けていく仕組みを作らなければ、地域防災力の継続は難しいと感じた。住民の生活に必要不可欠な防災を、楽しくワクワクしながら取り組める企画力が重要であり、小中高生たちの防災教育を支援していきたい。

